

科目名	人間関係論	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			経済学科	□必修 ■選択	
			学科	□必修 □選択	
英文表記	Human Relations	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年		
		開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中		
ふりがな	にしまき じょうじ	実務家教員担当科目		修得単位	2単位
担当者名	西巻 丈児	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	人と人との関係に基づいて、人間のふるまいや生活のさまざまな現象を見ていこうというアプローチが、人間関係論である。このアプローチは、以前から企業経営の戦略に取り入れられたり、看護の現場で実践されたりしてきている。こうした研究成果を踏まえて、他者とのさまざまな協同作業や合意形成と、自分が巻き込まれている人間関係を築いていくための態度や能力を身につけることができるようになる。				
到達目標	・これまでの研究成果としての「人間関係論」を説明できる。 ・人間関係のつながりについて説明できる。 ・「自分とは何か」について考える視点を養うことができる。				
授業概要	授業では、これまでの「人間関係論」の研究成果、つまり経済活動の中で生じる人間関係の研究と、看護の現場からの対人関係理論を概観し、人間関係やコミュニケーションの仕組みを解明していく。 その後、自分が否応なしに巻き込まれていた、また、これからも巻き込まれていく「自分自身」と「家族」の人間関係の諸問題を「いのち」の観点から考察していく。 この「人間関係」の諸問題を「自分の問題」として考えられるよう、ドキュメンタリー映像やさまざまな資料をふんだんに交えながら授業を展開していく。				
授業計画					
第1回	イントロダクション ―「人間関係論」とは何か―				
第2回	人間関係が生ずる淵源				
第3回	人間関係的管理アプローチ ―ホーソン実験から見えてくるもの―				
第4回	対人関係理論 ―ペプロウ看護論から浮かび上がってくるもの―				
第5回	倫理学的研究アプローチについて				
第6回	生き方の自己決定から見えてくる人間関係				
第7回	「死」を見つめる(1) ―世界に見る死の自己決定―				
第8回	「死」を見つめる(2) ―死を決定する権利をめぐる―				
第9回	「家族」の自己決定(1) ―女性の権利の問題について―				
第10回	「家族」の自己決定(2) ―女性と子どもの権利の問題―				
第11回	「家族」の選択(1) ―脳死と臓器提供の問題について―				
第12回	「家族」の選択(2) ―死をめぐる家族との人間関係―				
第13回	「家族」の役割(1) ―生と死の判定をめぐる―				
第14回	「家族」の役割(2) ―自分のいのちは自分のものか―				
第15回	本授業の総括				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	予習：(1.5時間程度) 授業の内容は連関しているので、毎回、配布する資料を復習しておき、前の回までの内容を自分なりに考えて授業に臨むようにすること。 復習：(1.5時間程度) 毎回配布する資料に参考文献を記載するので、復習する際にはそれも参考にすること。				
履修条件	予習・復習を必ずして、積極的に授業に参加すること。				

受講のルール	
テキスト	特に指定はしない。ポータルサイトにて、毎回事前に配布するプリントが教科書の代わりとなる。 また、パワーポイント、映像資料や文字資料も使用する。
参考文献・資料	授業内で適宜指示する。
成績評価の方法	毎回提出してもらうリアクションペーパーによる理解度（４５％）、定期試験（５５％）を総合的に評価する。 また、欠席、遅刻、私語、居眠り、無断退出等については減点の対象とする。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日 １０：４０～１２：１０、１３：００～１４：３０ 事前連絡があれば、上記時間の他も可能性あり。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	生まれた瞬間から否応なしに巻き込まれているさまざまな人間関係について、改めて見直してみましよう。自己の気づきを他者とのコミュニケーションに活用し、実際の場面に活用できるよう身につけて、社会人への成長段階を、実感してみましよう。